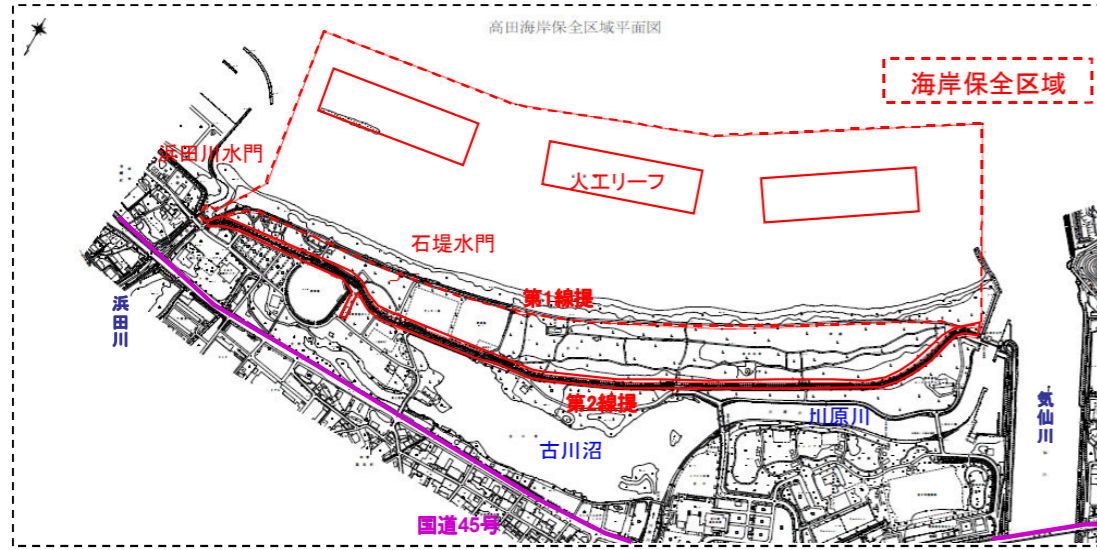


◆高田地区海岸の概要

海岸名	三陸南沿岸 陸前高田海岸 高田地区海岸
海岸線延長	1,856m
海岸保全区域面積	824,802m ²
被災前防護水準	計画津波高さ T.P.(※1)+5.50m
所管・管理者	水管理・国土保全局・岩手県
位置	陸前高田市米崎町沼田～気仙町砂盛



海岸保全施設としては、第二線堤 (T.P.+5.5m) 1,871m、第一線堤 (T.P.+3.0m) 1,982m、人工リーフ 400m×3基、浜田川水門などが整備済みであった。

※1 T.P.とは、全国の標高の基準となる海水面の高さである。東京湾の平均潮位をもとに定められており、「東京湾中等潮位」とも呼ばれる。

◆背後地の状況

高田地区海岸の背後には、陸前高田市役所・県立高田病院等を含めた市街地、国道45号、JR大船渡線陸前高田駅など陸前高田市の中心市街地が立地していた。西の唐桑半島と東の広田半島に挟まれた広田湾の北奥に広がる小さな平野である。

また、第一線堤と第二線堤の間には高田松原、第1線堤の海側には砂浜（高田松原海水浴場）が広がっており、白砂青松の景勝地(※2)であった。平成21年には約104万人の観光客が訪れた。



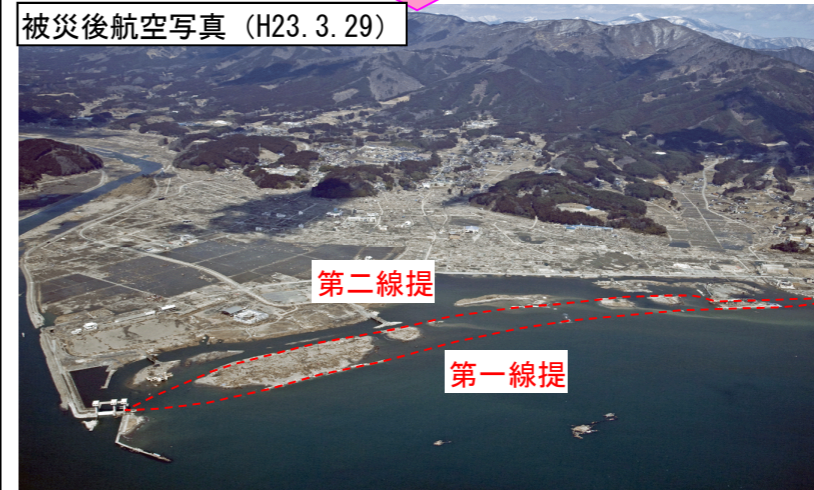
※2 高田松原及び砂浜は、明治時代には日本百選（1927年）に選ばれたのをはじめとして、国指定文化財（1940年）、都市公園（1958年）、新日本百景（1958年）、陸中海岸国立公園（1964年）、日本の名松百選（1983年）、森林浴の森百選（1986年）、白砂青松百選（1987年）、海と緑の健康地域（1996年）、日本の渚百選（1996年）などの指定や選定を受けてきた。

◆被災状況

被災前航空写真 (H22. 3. 14)



被災後航空写真 (H23. 3. 29)



H23. 3. 11 東日本大震災に伴う大津波により、海岸防潮堤が倒壊・流失し、市庁舎を含む中心市街地は壊滅し、主要動線となる道路（国道45号）、鉄道（JR 大船渡線）の被害も甚大であった。

なお、海岸付近での津波痕跡（岩手県調査）は、最大痕跡高T.P.+17.0m（岩手県調査）と、施設防護水準（T.P.+5.5m）を大きく超える津波であったことが確認された。

海岸保全施設としては、地震に伴う地盤沈下（約1m）及び液状化が発生し、防潮堤（第一線堤、第二線堤）は、ほぼ全壊した。また、海岸防護林である松原・砂浜も消失、後退した。

海岸防潮堤被災状況



海岸防潮堤被災状況



H23. 3. 11東日本大震災津波による浸水範囲

